

佐伯 順弘

28JAN2021

まふゆのキャンプが終了し、後日帰りのスタッフで反省会を行った。様々な議論が交わされ、今後のキャンプのあり方、ピザ窯でつくるメニューの強化、幕営地の改善策、スタッフの酒の飲み方、今後のINCHの多国籍企業化及び世界戦略について、世界の感染症対策について、また、地球環境の保全や50億年後の太陽系消滅についてなど、話題は多岐に渡った。

もちろん、冒険旅行の話も。この自然文化誌研究会とも深い関わりのある冒険探検部主催の中国遠征に参加したことは、人生の中では大きな出来事だった。文字通り人生観を変えた出来事だった。そんな話を夏のキャンプ参加者の芽衣ちゃんにしたとき、これまた夏のキャンプ参加者の小晴ちゃんが台湾の話をしたがっていたとのことで、小晴ちゃんも交えて台湾について話をした。というのも、私が台湾の在外教育施設に赴任していたこと、彼女が新型コロナ感染症の拡大がなかったら台湾に研修に行くはずだったことなどがあったからだ。たった2年間の赴任期間ではあったが、台湾、高雄は私にとって大切な街になった。いわゆるアナザースカイというやつだ。まるで自分の地元の話をするように台湾の話をするのは楽しかった。日本以外の国のことについて体感するのは大切なことだと伝えたかった。それだけに学生たちが海外を見るチャンスを奪われている現状が残念でならなかった。そんな話を取り留めもなく話し続けていた……。

それほど長いキャンプでもなかったのだが、とにかく大寒波で体に負担がかかっていたのかもしれない。ふと睡魔に襲われ、早々に自分のテントに戻った。学生時代に買った冬山対応のシュラフでぬくぬくと寝入る刹那、そう、1回指を弾く間に60あるいは65の刹那があるというその刹那の時間に、夏の冒険学校後の海外旅行についての概要を決めていた。そして、旅行

の計画はいつの間にか詳細なものになっていき、現実との区別があいまいになっていった。これは、職場でスキー研修、修学旅行の日程を分刻みで作っていたことが影響しているはずだ。あの時は何度もスケジュールを辿り、行程の矛盾や装備の補足等をしていった。出発当日にはもう10回以上、スキー研修や修学旅行に行った気分だった。そんなこともあり、冬のキャンプから脳内コンピュータでは別スレッドでスケジュールの検討が自動で定期的に行われていた。

Someday in February

立春とは名ばかりで各地で大雪が降っているとのニュースが流れる頃、芽衣ちゃん、小晴ちゃんと旅の準備についてオンラインで打ち合わせをした。まったく便利な世の中だ。

「バックパックで海外旅行！キャンプの精神でいけば、行けそうだけど初めての海外旅行では荷物が多くなっちゃいそうです。」

芽衣ちゃんはやや戸惑いつつも明るい様子だった。

「以前、相談したんですけど、バックパックで旅行というのは、大きいザックが必要になってくると思うんですが、いまは30Lしかないんです。今後も旅をしたいので、必要だったら準備しようかと思っています。」

ワンゲルの小晴ちゃんは既に山用ザックを持っているが、旅行用ザックを買おうか迷っている様子だ。

「どんなバックパックを買おうと思っているの？」

「関口知宏さんがヨーロッパ鉄道の旅をする番組をNHKのBSでやっていて、その時に関口さんが使っていたバックパックなんかどうかなあと思っています。」

「コートエシエルのバックパックですと？」

Isar Medium Coated Canvas は53,900円もするんだよ。しかも収納可能30Lで重量:1610g。確かにかっこいいけど、重いし、高いよ。」

「えっ、それくらいならそれほどの出費じゃないです。先日もバーキン買いました。トリヨンクレマンス 1,276,000 円。それに重いこともなんてことないです。ワングルだし。山のように長時間登るわけじゃないし。」

「そうなの？それならいいけどさあ。じゃあ、今回の旅の方針を大きく転換しなきゃならないなあ。」

海外冒険旅行へのイメージのずれを感じ始めていた。意見交換は認識の擦り合わせを行い、イメージを統一するための大変重要だ。

「どういうことですか。」

芽衣ちゃんが旅行用バックパックと旅の方針がどう関係するのか、納得できない様子だ。

「安心確実を最優先として、超リーズナブルな旅を基本方針としていたのだけだ。」

「それはそれでいいと思います。」

「なんです？金銭感覚が意味不明なんだけど。旅行用のバックパックに5万円は全然リーズナブルじゃないよ。」

「そうですけど、バッグはいいものを持ちたいです。バックにはお金を使っても、今回の旅は冒険旅行なのでワングルモード、アウトドアモードですから、超リーズナブルはウェルカムです。ところで、佐伯さんのおすすめバックパックはなんですか。」

芽衣ちゃんもバッグを買う気になったのか、質問が具体的になってきた。

「1~3泊程度の小旅行用なら20から30L程度の小さめサイズ、4日~1週間程度の旅行なら大容量の40から50Lサイズがいいと言われるけど、旅のスタイルによってかなりかわってくるからなあ。学生の時は1か月くらい海外旅行していたけど、40Lくらいのバックパックで十分だったよ。むしろ、登山用ザックは60Lで、そっちの方が大きかった。随分と前に買ったけど、montbell ZERO POINT のザックで70Lくらいだったかな。ここ数年の海外旅行のバッグはCABIN - ZERO CLASSIC44L (51×37×20 cm, 760 g) 9,900 円で2週間くらい旅している。登山じゃなく、旅行用のバックパックっていう感じだから気に入っている。台湾は4

泊5日の日程の時、Alpha Industries のバックパック (29×15×48 cm, 約20L) 値段は忘れた。今回の台湾旅行はバックパッカー的な旅で9泊10日だから、30Lで十分だと思うけれど、背負えるんだったら、もう少し大きくてもいい。例えば、CABINZERO CLASSIC 36L (45×31×20 cm, 700 g) 9,020 円はなかなかいいと思う。機内持ち込みサイズだし、価格もお手頃だし、バッグ自体の重量が小さいから、持ち込み荷物の重量制限内でより多くの荷物を入れられる。さらに丈夫だから長持ちしそう。鍵もつけられるので安心感がある。他にもいいバッグはあるけど、そこそこいいお値段なんだよね。」

「機内持ち込み荷物に制限があるんですか。」

小晴ちゃんがそれを知らなくても全く不思議ではない。今でこそ、荷物の重さを気にしているが、海外旅行初期の頃はザックでさえ、預け荷物にしていたから(制限20kg前後だが、ザック20kgは慣れていないとかなり重く感じるため自然と20kg以下に収まっていた)何とも思っていなかった。それにLCCではなく、大手の航空会社しか選択肢がなかった。神戸から上海までは船で行っていたから、荷物の重量など全く問題にならなかった。

「そうなんだよ。制限を超えると折角安いエアチケットを入手したのに追加料金がかかってしまうから、サイズと重量は守りたい。」

「機内持ち込みじゃなくて、預け荷物にしてはどうですか。」

確かに、芽衣ちゃんのイメージは若干汚れた服でバックパックを背負って、とにかく歩くバックパッカーじゃなく、こぎれいな服でキャリアバックを引いている方が似合っている。預け荷物にして、持ち込みはポーチだけというのが妥当だ。金はないが時間と体力だけは有り余っている学生にとって旅行はどれだけ安くして、楽しむかが肝要だという冒険探検部で培われた自分の冒険旅行のイメージを押し付けていたことに気付かされた。あくまでも初海外旅行の華奢な女の子の旅行をサポートするのだ。とはいえ、こぎれいな格好でバックパックを背負って

いる女子も少なくないし、汚かったのは学生の頃の自分たちだったのだから、小綺麗とバックパックは全く矛盾しないはずだ。

「機内持ち込みにすれば、空港に到着してから荷物が出てくるまで待つ必要はないし、とにかくフットワークが良くなるのがいい。そりゃ、トランクよりずいぶん小さくなるし、重さもおさえなきゃいけない。特に女子は荷物が多いイメージがあるので、あまり小さいのもダメだとは思いますが、極力身軽に動けたらと思っている。キャリーバッグの中にも機内持ち込み可能なサイズのものが多いけど、バッグ自体、意外と重いから、あまり荷物を詰めることができない。それに、引っ張って移動できるのは空港の中などで、街中は意外と段差や水たまりなど汚れたところが多くて、引っ張って移動できなかったり、持ち上げて移動したくなったりするから、冒険旅行ならフットワークの良さはバックパックが一番だね。基本的にタクシーで移動という旅なら大きなトランクやキャリーバックでもいい。」

「機内持ち込みの荷物って、どのくらいの大きさまで大丈夫ですか。」

「各航空会社によって、差があるから航空会社が決まったらHPで確認しなければいけないのだけれど、だいたい55×40×25cm、三辺の合計が115cm、個数が1~2個、重量が合計7kgというのが多い。おすすめバッグはサイズをクリアしているから、重量だけ気を付ければ大丈夫。44Lサイズでもいいけど、大きいと感じたら36Lサイズでいいんじゃないかな。後は自分の財布と相談だね。ま、預け荷物にして荷物が出てくるまでの待つことくらい大したことではないとも言えるから、その辺りにこだわる必要もない。安さだけを追究して楽しめないのも残念だし、無駄なお金をかけるのもなんだかなという感じだから。できるだけリーズナブルっていうのは基本方針なんだけど、気分よく行かなくや行く意味がないと思うよ。別に修行に行くわけじゃないんだから。」

とりあえず、旅行用鞆についてのやや長い説明を締めくくった。

「海外旅行に必要なものは、パスポート、航空券、現金またはクレジットカード、この3点があればとりあえず大丈夫。この3つがないと何ともならない。特にパスポート。実はこれが原因で一度海外旅行に行けなかったことがある。」

「えっ？そうなんですか。」

芽衣ちゃん、小晴ちゃんの声がそろった。

「そうなんだよ。いつもは気にしないんだけど、偶然出発前日にパスポートを見てみたら、とくに有効期限が切れていて、結局LCCだったから、航空券の払い戻しもできず。被害はすくなかったけど、すごく悲しかったなあ。」

「佐伯さんでもそういうミスをするんですね。」

「ま、そういうことです。だから、旅行を思い立ったら、まずパスポートの有効期限の確認をしたほうがいいね。いや、確実にすべきだね。」

「他に準備段階で注意することはありますか。」

芽衣ちゃんも小晴ちゃんもかなり真剣にメモを取りながら聞いている。レジメでも作っておけばよかったかなと授業のようなことを考えていた。

「靴は歩きやすいのがいいね。街歩きを楽しみたいから。荷物は少な目がいいので、絶対使うもの以外では常備薬を追加するくらいかな。初海外は水や食べ物、疲れ、乾燥などで体調を崩すことがあるから、飲みなれたビタミン剤と整腸剤、ビオフェルミンとかがあるといいかも。台湾でも普通に売ってるけど。それから着替えも現地にユニクロあるから買えるし、台湾メーカーのも記念になるかも。ユースホステル系は基本的にランドリーあるし、ホテルならランドリーサービスもある。それほど高い値段じゃないけど、洗い方の指定はあまりできないと思うから、丈夫な服がいいね。いわゆるおしゃれ着は危険かな。学生の頃は1か月の海外旅行でも下着は3セットで十分だった。シャワー浴びるときについて洗って、バスタオルにくるんで踏んで脱水して部屋に干す。一般的に部屋は乾燥しているからすぐ乾く。部屋の乾燥しすぎを和らげる効果もある。」

また長喋りし過ぎた。どんなに大切なことでも聞いてばかりでは眠くなるのは誰もが授業で

思い知っているはずだ。ところがこの2人はメモを取りながら真剣に聞いている。本当に優秀な学生だ。その学生の優秀さに甘えてグダグダ授業をすると学生に嫌がられるに違いない。もう少し知りたいくらいのところまで終えるのがよいだろう。

「それじゃまた、相談したいことがあったらまた連絡して。行きたいところややりたいこともね。」

「はい。また、連絡します。」

「芽衣と相談して、行きたいところややりたいことまとめておきます。」

2022年3月21日を以て、全国各地に出されていた蔓延防止等重点措置がすべての地域で解除された。4月17日の「野草と天ぷらとお茶つみの会」の開催は中止となったものの、5月の「冒険学校村まつりキャンプ」は無事開催できた。そのキャンプの打ち上げの時にも意見交換して、詰めていった。世界的にも感染症は治まりを見せていたが、ワクチンの大量接種及び、マスク、手洗いなどの感染防御生活が全世界の基本となったため、出入国に対する制限が徐々に緩和され、世界経済を活性化させるための「GOTO ワールドトラベル」などというどこかの国がやっていたキャンペーンも各国で広がりを見せ、海外旅行をしやすい世界情勢になってきた。その状況で、何度もメールなどでやり取りをして旅行計画をより詳細なものとした。

そして、夏。

DAY(-1) (12AUG2022) 小菅→日暮里

今年も冒険学校を無事終えることができた。参加者たちを送り出した後、昨夜は穏やかに、誰もがほっとした気持ちとやり切った達成感で反省会を過ごしていた。冒険学校期間中の夜のミーティングなどでは旅行の話はしないで冒険学校の成功に向けて集中した。打ち上げの時にやっと翌日からの旅行の話が出て、気持ちが盛り上がってきた。

明けて今日は、次のミッションである。キャンプ場の後片付けは昨日の午後にやっつけたので、今日のはんびりモードで次のプログラムに入る。XV (いつものオレンジの車) には台湾旅

行の装備がいつものCABIN - ZEROに入れて積んである。心配性なので、パスポート、航空券のレシート、現金及びクレジットカードを確認する。パスポートの有効期限も大丈夫だ。(もっとも、今更切れていたことが発覚しても何の手も打てないのだが。)ログハウスで野外用装備を解いて通常の服に着替える。例によって、用意してあった段ボールに汚れ物を詰め込み、途中の商店で自宅に送りつける。Timberlandのブーツは長時間歩くのにはつらいし、街には似合わないの、いつものウォーキングシューズに履き替える。車は黒澤邸のそばの公民館脇に駐車させていただこうと思ったところ、ラーメン屋ができるとのことで、そこには置けなくなった。仕方なく、キャンプ場に置いておくことにした。車のキーは黒澤くんに預ける。そこから、奥多摩駅まで送ってもらう。芽衣ちゃん、小晴ちゃんも一緒である。

「疲れているからとにかく早めに寝てよ。」

「大丈夫です。冒険学校前に準備してきました。帰宅したらできるだけ早く寝ます。でも、明日は0915三ツ境駅発の電車なので、それほど大変ではないと思います。こはるんは何時起き？」

「私も西国分寺0936発だから、芽衣とそんなにかわらないよ。佐伯さんはどうですか。」

「集合場所の日暮里に泊まるから、ゆっくりかな。そうはいつでも1時間くらい余分に寝られるくらいかな。あ、それから、すずちゃん、ゆりちゃんへ大丈夫かな。一応1030日暮里駅集合だけど、1105のスカイライナーに間に合えばいいから。それから、チケットは買っておくよ。」

「おすずもゆりも大丈夫です。」

そんな話をしている間に、奥多摩駅から日暮里駅に向かう途中、拝島駅で芽衣ちゃん、西国分寺駅で小晴ちゃんが降りていった。

13:53 奥多摩発、16:03 日暮里着

奥多摩はやはり遠い。岐阜から車で来たって奥多摩は休憩を減らして高速を走れば5時間で到着する距離だ。小菅~岐阜間は、距離はあるものの時間的には都心に住んでいる人はそれほど変わらないのだ。

さて、日暮里駅に到着。当然約2週間のキャ

ンプの疲れは残っているが、明朝の行動を円滑にするためにもバックパックを背負ったまま日暮里駅の探索をする。チケットはネット予約もできるが、前日に日暮里駅に行くのだからついでに買って置く。これで朝の動きに余裕ができる。遅刻者がいると損害だが、どうということはない。ただ、すべて人任せだと旅の実感がなから、台湾では各自で買うことにしよう。朝の集合場所として適切な場所を選定、人の流れを確認、改札とホームへの移動経路を確認する。更には地震や火災、暴動、テロ事案発生時の避難経路、爆発及び銃撃に対する避難行動計画を立案する。巨大怪獣、エイリアン、隕石の落下への対策はやや可能性が低いので考えるのをやめておいた。

できるだけ早く休んで疲れを取るべきだが、既に15分も使っている。こうしてはいられない。すぐ今夜の宿に向かう。そう、新しい旅はもう始まっているのだ。

京成日暮里駅東口から徒歩3分の駅から一番近いホテルという事で選んだのは、「HOTEL owl TOKYO」1,546円カプセルタイプ/シャワー・トイレ共用である。

Owlというのはフクロウである。名前に違わずマスコットのフクロウがいた。このくらいのサイズで、おとなしければ飼ってみたいなあと思っただけで、基本肉食で、森では捕食者の上位に属するいわゆる食物連鎖の頂点にいる生物だ。お世話が半端なく大変だと予想はつく。フクロウ購入計画は脳内での激論の末、10秒ほどで却下された。

チェックインし、外に出るのも面倒だと思うくらい疲れていたが、館内にキッチンはあるもののレストランはないので、仕方なく外に出る。

歩いているとそれほど疲れていないことに気付く。肉体的には疲れたかも知れないが、精神的には十分回復したのだからそれはそうかもしれない、納得する。ふと、中華料理屋が目に入る。いやいや、明日から中華圏に良好するのに前日に中華料理はないだろうと思いつつ、日本の中華と台湾料理は違うからと思いつつ、のれんをくぐる。これから寝るのと思いつつ、

ボリューミーな五日ラーメンセット800円点心つきを頼む。この店はきれいだが、店内がかなり残念な店でさえ、味は許せるというのが中華であるという認識はまたしても確認され、若干食べ過ぎの感はあるものの、納得の夕食であった。ホステルの隣にある銭湯も気になったが、シャワーを浴びてとりあえずカプセルのベッドに入り、目覚ましを時をかけ、横になった。そして、いつの間にか眠っていた。

DAY1 (13AUG2022) 日暮里→成田→台北
0700 目覚ましよりも早く起きてしまった。昨夜寝たのは21時頃だったか。10時間も睡眠時間がとれた。通常7時間睡眠だが、疲れていたのだろう。おかげで、体調もいい。ゆっくりシャワーを浴びて、着替える。朝食は駅のコーヒーショップで済ませよう。早く起きたので、のんびりできる。

0900 朝は時間が過ぎるのが早い気がする。あっという間に2時間も経ち、ホステルをチェックアウト。日暮里駅のコーヒーショップに向かう。コーヒーを飲みつつ、サンドイッチを摂取し、旅メモをとる。このメモは後に旅日記を書くときに活用される。重要な人生の記録だ。

1000 コーヒーショップを出る。トイレに行き、早めに集合場所に到着。集合場所の詳細を参加者に連絡する。すると、すぐ、芽衣ちゃん、小晴ちゃんが集合場所に現れる。

「ずいぶん早くない？」
「遅れるのが怖かったので、早めに来たんです。そしたら、こはるさんも早めに来ていて、改札で会いました。」

「そうなんです。遅れて置いていかれたら、どうしようと思ってとても心配でした。あ、それから、この子がおすすずで、この子がゆりです。」

「初めまして、よろしくお願いします。」
声がシンクロしていた。

「お願いします。それじゃ、早速いきますか。」
それぞれに乗車券・指定席券を渡し、改札へ向かう。

1105 日暮里発 京成特急スカイライナー33号・成田空港行は2507円、36分で成田空港との間を結んでいる。この時間に詳しい自己紹介

をしたり、集金などをしてたりして過ごした。
1141 定刻通り、成田空港第2ビル B1F 到着。
第2ターミナル3Fにチェックインカウンターがある。今回はIカウンターのはずだ。

「佐伯さん、すごい混雑ですね。」

芽衣ちゃんが仲間の様子を見ながら聞いた。
「そうなんだよ。なんといってもお盆だからね。8/11 までか、8/17 から出発というように、基本はお盆を外して出発するんだけど冒険学校が8/11 までで後片づけや反省会に参加したかったから、8/13 が最速だったなあ。お盆後にすると、もう学校が始まるから旅行日数が少なくなる。今回の場合、既にこれが冒険なんだけど8/13 出発という激混みの日程で挑戦してみた。だから、空港にも3時間以上前に到着したんだよ。通常は2時間か2時間半前なんだけど、混むことがわかっていてからね。まずは、掲示板を見て目的のフライトのチェックインが何時からどこのカウンターで始まるか確認しよう。」
1200 成田空港は激混みだったが、十分時間に余裕をもって到着できたので、何の心配もいらなかった。一人旅のときには全く心配いらないのだが、複数人で集合する場合には一人遅れれば全員動けなくなる。しかも、今はお盆休みで帰省したり、海外旅行に出かけたりで空港は確実に混むことがわかっていたので、十分すぎる余裕を設定したのだ。

案内ディスプレイでチェックインカウンターを確認し、向かうと当然のことながら誰も並んでいなかった。前日までにオンラインチェックインを済ませる方法もあったのだが、突然参加できないとなった場合の対応が難しいし、そこまでやってしまうのは旅の楽しみを奪うことになると思ったので、それはしなかった。

「ところで、みんなの荷物は持ち込み手荷物かな。」と今更のことを聞いてみた。

「素早く動くことを最優先にして、みんな持ち込み手荷物にしました。重さも規定内にしてあります。本当はもっとおしゃべりしたり、街歩きと夜バーに行くときの靴を別にしたりしたかったんだけど、そこは泣く泣くあきらめました。」と明るく答えてくれたのは小晴ちゃんだった。

「冒険学校に出かける前に荷物の準備をしたら、荷物が規定の3倍くらいになっちゃって、もうどうしようかと思っちゃいました。」芽衣ちゃんは全然困っていないように話してくれた。

「で、どうやって減らしたの？」

「本当に生きて行くために必要なものから、重さを量ってリストを作って入れていきました。」

「がんばったね。」

「それはそれで楽しかったんですけど、帰りのお土産を考えた時にどうなるか心配です。」

「最後の手段は、身につけてしまうことだね。特に、カメラとかタブレットとかは肩にかけたり、手に持ったり、できるだけポケットに入れたりするだけでもかなり違うよ。」

「でも、それファッション的にダサダサですよ。それはちょっと耐えられないです。」

と慣れてきたはずちゃんから厳しめの意見が出された。

「そうそう、冬でも着ぶくれないように気を遣っているのに、夏に着ぶくれとかありえないです。」

ゆりちゃんも追い打ちをかけてきた。

「それはそうだろうけど、人それぞれ優先順位が違うから、自分の大切にすることは譲らなくていいと思うよ。」

と答えつつ、自分のファッションセンスゼロな部分が今までの旅を有利に進めていたことを改めて思い知らされていた。

「あ、呼ばれてる。」最近カウンターだけでなく、近くにセルフチェックインのマシンが置かれている場合があり、そこでグランドスタッフが呼んでいた。(本来はグランドではなくグラウンドが正しいのだろうが、様々な場面でグラウンドとグランドが混同されていてよくわからない。英語では ground と grand だから明らかに違うのだけど、なぜ日本ではこんなにも混同されているのか。不思議だ。)

「みんなパスポートはすぐ出せるかな。これがeチケットの控え。」とプリントアウトしたものを配る。まとめてプリントアウトもできるが、個別用にもプリントアウトできるのだ。もちろん、一人ずつ手続きをすると手間がかかって迷

惑なので、手続きはまとめてあるプリントで行った。

セルフチェックインといっても基本的にグランドスタッフがやってくれるから、自分でやっている感はないのだけれど、目の前で確実にチェックされていくのは安心感がある。でも、オンラインチェックインと変わらないではないかという考えもあるが、知らないところで操作され、搭乗券だけ渡されるのと目の前で操作してもらい搭乗券が出てきて渡されるのでは体感が違うのだ。パックツアーではなく、敢えて冒険の旅に出るのだから、少しでも体感を大切にしたいと考えているのだ。それが搭乗時刻の3時間前に並ぶことになろうともだ。座席については予約したときに指定しておいたので、席が離れて心配ということもなかった。

さて、無事にチェックインが終わった。

「佐伯さん、チェックインが終わって、飛行機に乗るまで2時間半以上あるんですけど、どうしますか。Wifiのルーターを受け取って来たいんですけど。」

「芽衣ちゃんたちもルーターを申し込んでいたんだっけ。いいよ、まず受け取りに行こう。どこで受け取ればいいのかわかる？」

「北団体カウンター前でロッカー受け取りです。」

「あ、同じだ。一緒にいこう。」

ルーターは2つ申し込んでいたようだ。これなら2人ずつでの少人数行動もできるし、より冒険旅行感が増す。はぐれても連絡を取りやすいし、現在位置もつかみやすいから安心だ。きっと、インスタなんかもやっているんだろう。

4人がルーターを受け取っている間に、銀行ATMでスカイライナーの中で受け取った航空券、ホテルの代金を入金しておいた。さすがに4人分は大金だ。クレジットカードやT/Cとは違って現金はとられたら戻ってこない。少しでもリスクは減らしておきたい。

さて、無事にルーターをロッカー受け取りをして、とりあえず、芽衣ちゃんとすずちゃんがルーターを持った。

「じゃあ、まずはラウンジに行こう。みんなク

レジットカード持ってるでしょ。それで入れるクレジットカード会社ラウンジっていうのがあるんだよ。」

荷物を背負ったまま、ラウンジへ移動する。近くのエスカレーターを上がったところにあるのですぐわかる。チェックインカウンターのある3Fのすぐ上、第2ターミナル本館4FにあるIASS Executive Lounge 2である。搭乗券とカードを見せて入ると、普段よりやや混雑しているものの5人が座れる場所は空いていた。



(参考画像：中部国際空港のラウンジ)

「これで、搭乗時刻まで待てばいいんだけど、それほど時間があるわけじゃない。」

「どういうことですか。」

と小晴ちゃんがのんびり聞いた。

「長時間並ばずにチェックインができて、搭乗券も手にしたし、時間的な余裕もあるけど、まだセキュリティーチェックと出国審査がある。」

「それって、なんでしたっけ。」

「ゆりちゃん、かなり大切なことだから覚えておいてね。」

少々長くなったが、セキュリティーチェックと出国審査について、さらには到着した空港での入国審査について説明した。

「いまさら言われても困ると思うけど、機内持ち込みの手荷物の中には銃器、火薬、ナイフの他、発火物など入れてないよね。」

「ええっ、ダメなんですか。」

「はあ？すずちゃん持ってるの？」

「ないです。」

「ですよ。びっくりした。なかなかテクニカルなボケをかましてくるね。ま、それはおいと

いて、この2つを通過するのにそこそこ時間がかかるんだよ。でね、ここで少し休んだら早めにその2つを通ってしまった方がいい。だからといって、2時間もかかるわけじゃないから、それほど急いでいるわけじゃない。飲み物もあるし、飲みながら今までの旅をメモしたり、台湾の予習をしたりしてよ。」

「飲み物ってもらえるんですか。」

「アルコールは1杯までだけど、ソフトドリンクは自由みたいだね。中部国際空港のラウンジはビールが自由に飲めた。」

先ほど受け取ったルーターの設定をしたり、旅メモ、を取ったりしながら、そこで30分ほど過ごしてから、セキュリティーチェックを通過して、出国審査の列に並んだ。予想通り、とんでもない列ができていた。それはそうだろう。やっと例の感染症が収まり、まるでカンブリアエクスプロージョンの時の生物種急激増加のように一気に人々の移動が増加した。それもお盆休みの初日である。十分予測されたことで、それに対処するために十二分の余裕をもってここにいるのだから列に並ぶことを楽しもう。

「あ、壁に掲示してあるようにここでは写真撮影禁止だから。」

ゆりちゃんがスマホを構えていた。

「どうして禁止なんですか。」

「不正に出入国しようと思ったら、どういうルートを使えばいいとか、出入国管理官の身内を人質にとって不正に出入国させるとかが簡単に考えられるから、保安上の理由によると思うんだけど。とにかく、撮影していると誤解されるような行動もやめた方がいいね。」

「佐伯さん、いつもそんなこと考えているんですか。不正出入国とか、テロとか。」

「考えていないわけではないけど、計画を実行に移したことはないし、移す予定も理由もないから特に問題ないと思うけど。そういう方向ではなく、国防のために弱点はないか点検しているということだよ。もちろん、自分の仕事ではないとはわかっているけど。」

そんなくだらない話をしている内に、列はほとんど進み、それほど時間をかけずに出国審査

を通過することができた。

「佐伯さん、また1時間はありますよ。」

「そうだね。まずは搭乗口のあるところまで歩いてみて、どのくらいの時間がかかるか確認して、その途中で面白そうなところがあれば、後で行く。トイレなんかも済ませておく。飛行機の中にももちろんあるけど、混雑するといやだから。芽衣ちゃんは何かやりたいことある？」

「そうですね。とにかく、空港の中を探検したいです。」

「いいね。じゃ、搭乗口の待合エリアまで行って荷物を置いたら、探検してきてよ。出発30分前には戻って来てよ。」

出国審査エリアから搭乗口は予想よりは近かったが、そこそこ距離があった。ベンチには誰もいなかったが、荷物で席を確保するなどという下品なことは絶対にしないし、させない。もちろん、世の中にはそのような輩がいることなど重々承知だが、そのような者どもとは違う価値観の中に生きているので、そのような場面に出くわしたところで改善を求めたりしない。違う世界に生きているのだから、価値観の共有などできるわけがない。気分が悪くなるだけだ。

「じゃ、4人で探検してきます。」

「荷物はちゃんと見てるから、大丈夫だよ。」

4人は小さな探検の旅に出かけて行った。

そろそろ30分前だというところで、出発時刻の遅延が表示された。30分遅れのようだ。大したことではない。そろそろ戻ってきてもいいころだが、全くその気配がない。少し心配になってきたところで、4人が戻ってきた。

「迷ったのかと思ったよ。」

「掲示板に遅延だと表示されていたので、大丈夫かと思ってゆっくりしました。連絡したほうがよかったですか。」

とゆりちゃんがコーヒーを片手に答えた。

「後30分遅かったら、心配するけど基本的にこのフロアにいるはずだから、問題はないよ。それに状況を理解して行動しているんだから大丈夫だよ。」

彼女たちが戻ってきたので、荷物の監視を頼んで、トイレに立った。

「みんなトイレはよかった？」

流石にこれはよろしくない。大学生に対して小学生扱いである。ついつい昔の癖が出たようだ。しかし、彼女たちは気に留める様子もなく、「大丈夫でえす。」

と、元気に応えてくれた。

「さあ、もう少しで搭乗が始まるから並ぼうか。」

「早めに並んだほうがいいんですか。」

「早く乗りたいとかいうことではなくて、自分の荷物の場所は適正に確保したいからね。誰もが芽衣ちゃんみたいにコンパクトにパッキングして、正しく詰めてくれるとは限らないから。搭乗が遅くなるとすごく遠くに入れる羽目になることもあるから。」

「なるほど。」

「それから、ペンはすぐ取り出せるところに持っていてよ。入国カードを書くときに必要だから。あと、パスポート番号を暗記していない人は書く必要があるから、すぐ出せるようにしておいた方がいいかも。」

「佐伯さんは、覚えているんですか。」

「覚えていないよ。旅メモの隅に書いてる。」

搭乗のアナウンスが入り、列が動き出す。各自搭乗券とパスポートを持っているか確認しつつ、前の人についていく。早めの搭乗だったので、荷物棚にも余裕があり楽に入れることができた。そもそも7kgまでなのでそれほど大変ではない。この航空会社では順次重量制ではなく、個数制に変わっていくとの情報を入手している。1610 予定時刻よりきっちり、30分遅れで、機体が動き始めた。何回乗ってもこの時のワクワク感はたまらない。少し動いて滑走路に出たようだ。そして暫し停止。おそらく、操縦席では、管制塔から「Cleared for take off」のコールを受け取っているところだろう。そして、急にエンジン音が大きくなり、機体が勢いよく動き始める。地面からの振動が消えるときの浮遊感がたまらない。おっと、自分の世界に浸り、今回のツアーメンバー4人の観察を完全に怠っていた。

様子を窺うと特に問題なく楽しそうにしているので、安心した。世の中には、この浮遊感で

気持ち悪くなる人もいるらしく、それを心配していたのだが、そんなことは全くないようだ。

1650 そういえば、まともな昼食はとっていなかったなあと思いつつ、機内食が配られるのを待っていた。すると、意外と早く配られ始めた。今食べると夕食が食べられないかもと思いつつ、昼食をまともに食べていなかったのだから、大丈夫だと思い直し、普通に完食してしまった。メニュー的には台湾寄りのメニューだったが、基本的な味付けは日本のそれだった。



(参考画像：牛肉咖喱飯)

このくらいの量ならば、夜市でいろいろなものを食べても大丈夫だろう。旅の食事の注意点は、①暴飲暴食を慎む、②水はミネラルウォーターに限る（しかも開封されていない奴。おそろしいことだが、海外では普通に水道水をペットボトルに詰めて打っている場合がある。買う前に開封されていないか確認する必要がある。それは、学生時代の冒険旅行の初期段階で思い知らされた。）そして、③整腸薬を常用する。この3つだが、どうしても面白そうなものがあれば、話のネタに食べておきたい。だから、食べなくていい時にはできるだけ、食べずに胃腸を休ませておくことが肝要なのである。

食事を終え、機内の映画を積極的に観ているとあっという間に到着してしまった。この航空会社は中華系の映画が充実していることと、日本でまだ封切られていない洋画も少なくないことから、楽しみの一つになっている。そうはいつても見られるのはせいぜい2本である。

書き終えた入国カードを確認して、ザックを背負い、台湾桃園国際空港に降り立つ。学生の

頃の一人旅では周囲の状況確認を怠らず、常にもどのような状況にも対応できるようにして、しかも目立たないようにして慎重に進むという緊迫した状況だったのだが、ツアーメンバー4人は穏やかで楽しげな様子だ。よいことだ。安心して楽しんでくれることが何よりである。ザックを担いだ歩みもしっかりしているし、これからの行動も問題なくできそうな状況である。まずは、入国審査へ向かう。人の流れと解りやすい案内板に従って、素早く移動する。



意外と人は並んでいなかった。ま、お盆は日本だけだろうから、海外ではそれほど混雑していないのも不思議ではない。

「佐伯さん、入国審査で何を話せばいいんですか。中国語それほど話せないんですけど。」

と心配顔の小晴ちゃん。いつものんびりしているから心配そうにしているのは意外だ。

「大丈夫だよ。こはるん、英語得意だよね。」

と余裕なのは芽衣ちゃん。

「笑顔で挨拶する。難しいことは聞かれないから、頑張っって答える。お礼を言う。このくらいができれば大丈夫だよ。それに、パスポートを出すから、日本人だってわかってくれるし。」

「日本人だってわかってくれると何かいいことがあるんですか。」

「そりゃ、日本を話せるスタッフもいるし、難しいこと聞いても答えられないこともわかってもらえるから、大丈夫だよ。」

心配していたほどではなく、それぞれ何の問題もなく通過した。

「向こうに銀行があるから両替しておこうか。」

「どのくらい両替すればいいですか、」

「そうだね。もう航空券、宿泊代の支払いはもう終わっているから、後は食事代、交通費、お土産代、アクティビティ関係だね。約10日間、日本で遊ぶより少し安いくらいでどのくらいかかるかを考えて両替すればいい。大量の台湾ドルを持ち歩くのも心配ではあるからそこも考えてね。足りなくなれば、街中の銀行で替えればいいよ。替えすぎると日本円に戻すときも手数料がかかるからちょっと損かな。芽衣ちゃんはそのくらい変えようと思ってる？」

「そう言われても・・・。」

「そうだよね。どの国でもそうだけど、食事をするにも高いところと安いところがあるよね。高いところにも価値はあるけど、安いところにも楽しさは満載。特に学生の冒険旅行なら安いところで楽しまないと。食事代は1日3000円、交通費も平均して1日3000円、足裏マッサージは3000円、天燈上げが2000円。それにお土産とか、カフェとか含めても一日当たり8000円に収まるかな。10日といっても実質8日くらいだから、そんな感じかな。」

それぞれ、自分の計画に沿って両替金額を決めたようだ。両替後一度、ベンチに座って大金とパスポートをザックの奥にしまい、当面使うくらいの金額を手元に残した。それから、旅日記に現金の状況を記録した。

「なんかすごく少なくなった感じがします。」

とすずちゃんが心配そうに言った。

「そうだね。1000元は日本の4200円くらいだからね。両替すると少なくなった感じがするよね。台湾ドルの価値は今のところ日本円の4.2倍だけど、5倍計算で考えると無駄遣いしなくて済むかも。」

「バスが50元だったら250円と考えればいいんですね。」

「そうそう、ゆりちゃん飲み込みが速いね。それじゃ、これからMRTで台北の中心に移動するから、その前にトイレとか行っておいて。」

(危なかった。もう少しでトイレにいったトイレなどと口走るところだった。これが老いというものか。年は取りたくないものだな。)

全員そろって移動の準備ができたところで銀

行の前には列ができていた。また、預け荷物もやっと出てきたところだ。素早く動いたことの効果が明確に示された。こういうことなのだよと言いたかったが、そればあまりにもかっこ悪いので止めておいた。

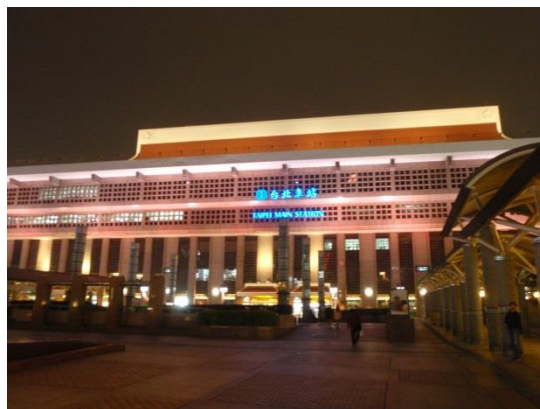


MRTはMass Rapid Transitの略で、基本地下鉄だ。もちろん地上に出ている部分もある。台北の他、高雄、台中にもある。路線図は単純で、日本の鉄道と同じく料金も書いてあるから安心だ。そこまでのトークン（コインのようなプラスチックのチケット?のようなもの）を買って、自動改札で入場し、そのトークンを返却して改札を出る。中は清潔で快適である。夏は若干冷房が効きすぎて寒いくらいだから、何か羽織るものがあったほうが安心だ。それでも外に出れば、南国の気温が待っている。

中国語が解らない旅行者にも理解できる案内図で何の問題もなくトークンを購入し、MRTに乗り込む。車内はすいていて、近いところに座ることができた。台北車站までは約40分。連絡バスが125元だったと思うので、160元のMRTはやや割高ではあるが、大変便利なので特に問題はない。

4人とも静かに周りを観察したり、車内の写真を撮ったりしている。もちろん、不躰に他人に黙ってカメラを向けるような撮り方はしていない。ここが正しい旅行者の姿であろう。どこの国の方々は一発でその国の人だとわかるくらい大きな声でしゃべっているものだが、日本人をはじめとする正しい旅行者は公共交通機関の中では静かにしているものだ。もちろん、日本で通常そのようにしているのだから、特に外

国だからと言って静かにしているわけではない。普段通りの振る舞いが国際基準なのである。さて、そう言った時間はあっという間に過ぎるもので、気づくと台北車站に到着である。



(参考画像：台北車站)

今夜の宿の方面に向けて地下コンコースを歩き、いったん地上に出て振り返るとライトアップされた駅が見えた。4人とも写真を撮っている。そりゃそうだよ。旅行だもの。

「じゃ、今夜の宿に行こう。」

「佐伯さん、ここからどのくらいあるんですか。」

と芽衣ちゃんが聞いた。そりゃ疲れているよね。丸1日移動だったから。

「大丈夫、ほんとすぐだから、歩いて何分というか、何歩というレベルだから。もう、あそこに見えてるよ。」

今日の宿は安さと近さを追究した場所を選んだ。品格子旅店北車店(Inn Cube Taipei Main Station)。台北車站からすぐのところにあるもう寝るだけといった宿だ。もう時間も20時半を回っている。すぐ休みたいだろう。

「チェックインしたら、すぐ寝る？少し外を歩いてみる？」

当然、すぐ寝ますという答えが返ってくるような問いを投げた。

「そりゃ、少しは探索したいです。」

「なんか食べたいし。」

「それほど疲れていません。」

「少しアルコールが欲しいかも。」

口々に大丈夫感をアピールだ。しかも、酒とはなかなか素晴らしい。

「じゃあ、少し歩いて食堂を探そう。コンビニ

でビールでも買って、このカフェスペースで飲むか。」

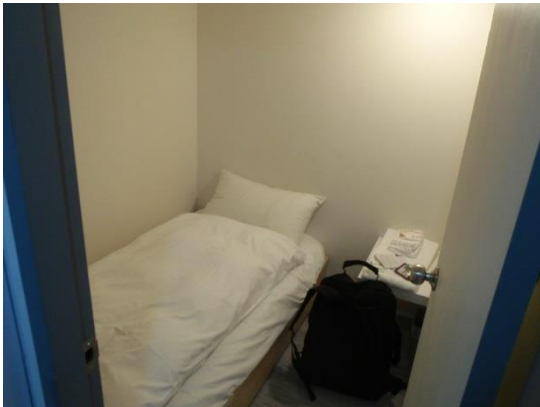
エレベーターでレセプションの階に上がるまでにチェックインしてからの行動が決まった。

チェックインは簡単で既に支払いも済んでいるので、パスポートチェックをして部屋のカギをもらったら完了だ。

「じゃ、15分後にここでいい？」

「はい。」

思いの外、元気な返事がそろって返ってきた。それぞれ2人ずつ部屋に送り出し、自分は1人部屋に入る。既に定宿と呼んでよいだらう。何度も泊まっているが、窓がないこと、ベッドで部屋がいっぱいであることなど、この近さ、安さの前にはどうでもよい。しかも、清潔である。これ以上望むことはない。



さて、ツアーリーダーは少し早めに集合場所に行かなければと思い、5分前に行ったのだが、既に4人はカフェスペースの席で談笑していた。

「遅れてすみません。」

ま、遅れてはいないのだが、ツアーリーダーとしてはちょっとね。

「じゃ、行きますか。」

身軽になると、当然のことながらフットワークも良くなる。まずは、食堂だ。近くのお店に案内する。一押しは魯肉飯（ルーローファン）である。何度も来ているので夜遅くまでやっていることは知っていた。今回も期待を裏切ることなく、しっかり営業していた。

5人一緒のテーブルに着いて、メニューを見る。注文は簡単で、注文票にテーブル番号、メニューの個数を書いて渡せばいい。

「佐伯さん、慣れてますね。」

「台湾に住んでいたんだから、このくらいはね。小晴ちゃんももうできると思うよ。」

「挨拶と食べ物はすぐ覚えると思うよ。」

待っている間、壁に貼ってあるメニューの解説をしたり、支払方法について説明したりした。それほど待つまもなく、魯肉飯が到着した。他に茹で野菜も頼んでおいた。



（参考画像：ルーロー飯（小）25元）

食べる前に、写真を撮っている。ですよ、基本ですよ。そういう自分も記録写真を撮っていた。

「おいしい。」

「なんか独特の香りがする。」

「でも、この香りは中華街で嗅いだことがある。」

「好きな味かも。」

口々に感想を言いながら食べている。口に合ったようでよかった。独特の香りは八角であろう。これが、ダメだと中華料理はかなりダメだが、みんな大丈夫そうだ。寝る前なのだから、そう腹いっぱい食べるものでもない。

台湾ではこういった場合、1人がまとめて払うことが圧倒的に多い。日本のように食べたものの代金を誰かが集めるとか、割り勘とかはあまりしない。ま、それほど大きな出費ではないのでまとめて払う。たぶんこれから何度かこういうことがあるだろう。そのうち、集金袋方式を提案したほうが、気兼ねなく食べられるかもしれない。毎日、一定金額を集金し、共有出費についてはそこから出すという方式だ。複数で旅行する時、タクシー代とか飲み代とかそういう支払いをそこからするのである。複数で旅

をするときの基本行動だった。ま、それは今後の提案である。それほど高額なものを食べるわけではないので、全部払ってもいいのだけれど、彼女たちが遠慮して食べたいものも食べられないというのは良くないので考え所だ。ま、高額なものを食べる機会があれば、考えよう。こんなことで量子コンピュータ並みの処理速度を持つ頭脳を使うとは残念なことだ。いやいや、そうではない、大切なことだ。

「ごちそうさまでした。」

いやいや、5人分で1000円にも満たない額だよ。それでもちゃんと礼が言えるのは、きっと親御さんの教育が良かったからであろう。いつの世も最近の若い奴は的なことを言われるものだが（エジプトの遺跡から解読された文章の中にも「最近の若い奴は」といった言葉が入ってきたと昔、世界史の先生が言っていた。本当かどうかを検証したことはない。教師が行ったことを盲信するほど愚か者ではないが、そういう発言があったという事実は記憶している。）どうしてどうして最近の若い方々はしっかりしていらっしゃる。これで日本の未来も明るい信じられる。さて、コンビニによってビールでも買って戻ろうとしたとき、小晴ちゃんが

「佐伯さん、もう少し探検したいんですけど。」

他の人の顔を見ると、同意といった感じだ。

「繁華街的なところがあるんですね。」

何で知っているんだ。そりゃ下調べするよな。しかし、そういうところに連れて行っているのか。お店に入りたいと言われたら、連れて行くのか？そういうお店に。ま、通過するだけならよからう。

「行きますか。」

少し歩くけれど、彼女たちの歩みはしっかりしている。特に心配はない。さて、そう言った通りに差し掛かる。多くの客引きに声をかけられる。本当に連れてきた良かったのか。彼女たちを見ると、楽しんでいるようだ。確かに日本の繁華街より賑やかではある。興味深い部分もあるだろう。

「佐伯さんもこういうところ行ったことあるんですか。」

はいはい、聞かれると思いましたよ。

「台北ではないなあ。」

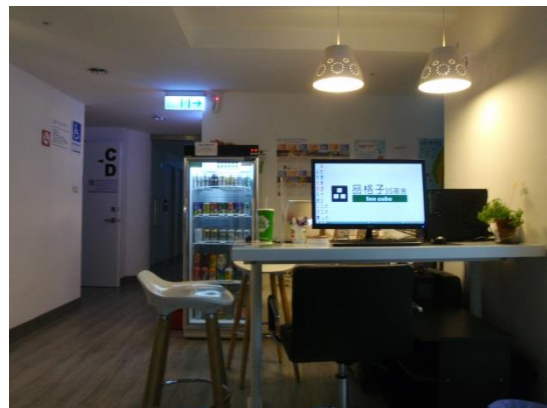
高雄ではありますと言ったも同然である。

「嫌いではないけれど、高いんだよね。年長者のスポンサーがいて、誘われた時くらいかなあ。」

一応、言い訳はしておくが酒の研究は積極的にするのでバーやパブにはいくが、大学生の頃から現在まで出納帳をつけ、自分の資産状況を把握しているような人間なので、ムダ金は使いたくない。メリハリ付けて金は使うが、締めるところは締めている。余計な追及があるかと思ったが、それもなくて、ほっとした。いやいや、後ろめたいことがあるわけではないのだ。

「さ、今日は疲れたから、コンビニによって帰ろう。」

台湾のファミマは「全家」という。各自、飲み物とスナックを買って、宿に戻る。23時近くになっていた。



カフェスペースには誰も、スタッフさえおらず、静かな感じだった。自然と静かに椅子に座り、お疲れさんの乾杯をすると、声のトーンを落としつつ少し話をした。

彼女たちの話は尽きない様子だったが、明日は若干早い6時半頃、出発だから、すぐシャワーを浴びて寝なければならない。翌朝はこの場所に6時半。5分前行動でなくていいから、ジャストでいいからと念を押して、先に部屋に戻った。すぐ、入浴装備のサンダル、タオル、全身シャンプー、歯ブラシ、着替えを持ってシャワールームに向かう。自衛隊員に迫る素早さで済ませ、部屋に戻り旅日記を付ける。

時刻は既に0時を回っていた。(つづく)

夏旅 2022 台湾 ～アナザースカイへのお誘い～

(資料①) 航空券

◎航空券検索条件

《行き》8/13 東京 (成田・羽田) →台湾 (台北・高雄)、

《帰り》8/22 台湾 (台北・高雄) →東京 (成田・羽田)

2022 年 8 月 13 日(土)移動時間：3 時間 55 分

CX451 15:40NRT 東京 成田 → 18:35TPE 台北 台湾桃園国際

2022 年 8 月 22 日(木)移動時間：3 時間 20 分

CX450 13:00 TPE 台北 台湾桃園国際 → 17:20 NRT 東京 成田

往復¥42,304

2022.3.20 時点

(資料②) 訪問を検討した都市, 施設, 活動

(台北)

- ・台北桃園国際空港 ⇔ 東京成田国際空港
- ・故宮博物館 世界四大博物館の一つとも言われる (諸説あり)
- ・中勢記念堂 蒋介石を記念して建てられた。「台湾民主記念堂」儀仗隊の交代儀式
- ・台湾故事館 昔の台湾の街並み, 庶民の生活を再現した博物館
- ・二二八和平公園 二二八事件関連資料を展示した二二八記念館
- ・国立台湾博物館 台湾の動植物, 原住民族の生活に関わる資料
- ・士林夜市 台北の観光夜市
- ・台北 1 0 1 台北 101 展望台 (600 元) スカイライン 460 (3,000 元)
- ・九份 「千と千尋の神隠し」的な街並み
- ・十份 天燈上げ
- ・淡水 夕景が有名, 洋館のある街並み

(台中)

- ・彩虹眷村 カラフルな壁画を見学
- ・宮原眼科 スイーツショップ, レストラン併設 (昼食)
- ・逢甲夜市 台中最大の夜市
- ・高美湿地 高美野生動物保護区, 「台湾のウユニ塩湖」とも
- ・国立台湾美術館
- ・国立自然科学博物館
- ・環球科技大学

(高雄)

- ・(台南) 烏山頭水庫
- ・西子湾 旗津 打狗英国領事館 打狗鉄道故事館 壽山景観台
- ・蓮池潭 龍虎塔
- ・三地門 台湾原住民族文化園区
- ・駁二芸術特区 高雄市立歴史博物館
- ・六合夜市, 瑞豊夜市, 苓雅夜市&自強夜市 新堀江 左脚右脚

(資料③) 日程 2022.8.13 - 22

8/5	金	冒険学校① 6泊7日	キャンプ場
8/11	木	冒険学校⑦ 参加者解散, 片付け 反省会	
8/12	金	片付け～移動・旅行最終準備	日暮里
8/13	土	夏旅01 移動日(成田→台北), 士林夜市 (移動) 1030 日暮里集合 1105 日暮里発→1141 成田国際空港着 (移動) 成田 → (午後) 台北 CX451 15:40 NRT 成田 → 18:35TPE 台北	台北
8/14	日	夏旅02 九份・十份観光, 台北観光, 公館夜市 十份(十份大瀑布, 老街散策, 天燈上げ) (台鐵台北車站→瑞芳站 7:30 - 8:12 (42min) 76 元 瑞芳站→十份站) 九份(散策)(台鐵十份站→瑞芳站→バス→九份)	台北
8/15	月	夏旅03 移動日(台北→台中), 台中観光, 逢甲夜市 (移動) 高鐵台北站→台中站→台鐵新烏日站→台中站 8:31 - 9:39 (1h08m) 高美湿地(台鐵台中站 305 バス清水站 178 高美湿地 15:08 - 16:50 (1h 42m))	台中
8/16	火	夏旅04 台中観光, 逢甲夜市 環球科技大學 台鐵台中站→斗六站→東和國中 7:56 - 9:46 (1h 50m) 164 元 彩虹眷村(台鐵台中站よりタクシー30分), 宮原眼科(台鐵台中站) 高美湿地予備	台中
8/17	水	夏旅05 台中観光 終日フリー, 逢甲夜市 国立台湾美術館, 国立自然科学博物館	台中
8/18	木	夏旅06 移動日(台中→高雄), 烏山頭水庫, 高雄観光, 六合夜市 (移動) 台鐵台中站→台鐵隆田站 8:07 - 10:42 (2h 35m) 196 元 烏山頭水庫 (移動) 台鐵隆田站→台鐵高雄站 16:46 - 17:57 (1h 11m) 151 元 七美望安, 高雄市立図書館, 新堀江, 左脚右脚	高雄
8/19	金	夏旅07 高雄周辺観光, 苓雅自強夜市 三地門 台鐵高雄車站→屏東→三地門 8:30 - 9:59 (1h29m) 駁二芸術特区 高雄市立歴史博物館 西仔湾, 旗津, 打狗英国領事館, 打狗鉄道故事館, 壽山景観台	高雄
8/20	土	夏旅08 高雄観光, 移動日(高雄→台北), 饒河街観光夜市 蓮池潭 龍虎塔 (移動) 高鉄左営站 → 高鐵台北站 14:52 - 16:29 (1h 37m) 1490 元	台北
8/21	日	夏旅09 台北観光 終日フリー, 寧夏夜市 故宮博物館, 中勢紀念堂, 台湾故事館, 二二八和平公園 国立台湾博物館, 台北101, 鼎泰豊,	台北
8/22	月	夏旅10 (移動) 台北車站→桃園国際空港(TPE) 8:45 - 9:47 (1h02m) (移動) 台北→(午後) 成田 CX450 13:00 TPE 台北 → 17:20 NRT 成田	(解散) 日暮里
8/23	火	夏旅11 日暮里→小菅→岐阜	

(資料④) ホテル

(台北 A) スリープ ボックス ホステル (睡覺盒子輕旅) (SLEEPBOX HOSTEL)

台北市中正区衡陽路 34 号

TEL+886-2-5571-3712 FAX+886-2-2388-4192 MRT 西門駅より 0.5km

男女混合ドミトリー部屋 10 人 1 室 カプセルホテル 禁煙/シャワー・トイレ共有
2,284~3,389 円(550~816 TWD)

(台北 B) インキューブ台北駅店(品格子旅店北車店) (Inn Cube Taipei Main Station)

台湾 台北市中正区公園路 13 号 10F

TEL+886-2-23114511 FAX+886-2-23817987 MRT 台北駅より徒歩約 10 分

【窓なし】ツインルーム 【二段ベッド】 バス・トイレ共同/禁煙/共用バスルーム
2 人利用 5,399~6,230 円/室 (1,300~1,500 TWD) 1 人当たり 2700~3215 円

(台北 C) ポッシュパッカー ホテル(鉅泊客旅店)(POSHPACKER HOTEL)

台北市中正区重慶南路一段 39 号

TEL+886-2-23755555 FAX+886-2-23755222 MRT 台北駅 Z8 出口より徒歩約 4 分

シングルルーム バス・トイレ共同/禁煙/
2,907~4,153 円/室 (700~1,000 TWD)

(台中 A) 53 ホテル (台中寶島 53 行館) (53 Hotel Taichung)

台中市中區中山路 27 號

TEL886-4-22206699 FAX886-4-22205899 台鉄台中駅から徒歩約 2 分

スーパーリア ツインルーム (ベッド 2 台) シャワーとトイレ付/禁煙 朝食あり人数 2 人
2 人利用 8,022~23,096 円/室 (1,910~5,499 TWD) 1 人当たり 4011~11548 円

(台中 B) シティインプラス台中駅ホテル(新驛旅店台中車站店) (CityInn Plus Hotel-Taichung St.)

台中市東區復興路 4 段 133 號

TEL+886-4-22232333 FAX+886-4-22237333 台鉄台中駅 1 番出口から徒歩約 3 分

スーパーリア ツインルーム (ベッド 2 台) シャワーとトイレ付/禁煙 朝食あり
2 人利用 6,048~18,900 円/室 (1,440~4,500 TWD) 1 人当たり 3024~9450 円

(高雄 A) シティースイーツ高雄真愛館 (城市商旅-高雄真愛館) (City Suites Kaohsiung Chenai)

高雄市塩埕区大義街 1 号

TEL+886-7-521-5116 FAX+886-7-521-8714 高雄駅より 4km、車で約 15 分

スーパーアツイン(SUT1-2BF) シャワーとトイレ付/禁煙 朝食あり

2 人利用 6,055~17,941 円/室 (1,458~4,320 TWD) 1 人当たり 3027~8970 円

(高雄 B) PAPA WHALE-KAOHSIUNG FORMOSA BOULEVARD(高雄美麗島館)

高雄市新興区民生一路 328 号

TEL+886-7-2519888 FAX+886-7-2516777 美麗島駅中央公園は徒歩圏内。

デラックスファミリールーム バス トイレ付/禁煙 180×210cm 2 台 朝食なし

4 人利用 7,921~29,618 円/室 (1,886~7,052 TWD) 1 人当たり 1980~7404 円